

**産業統計部会の審議状況について  
(作物統計調査) (報告)**

項目	変更内容等	部会審議		審議の状況
		第1回	第2回	
1 未諮問基幹統計としての確認事項	○利活用状況、調査対象作物の選定、調査の実施状況等について確認 ※「未諮問基幹統計の確認に対する取組方針」(平成26年10月20日統計委員会基本計画部会決定)に基づき確認	●		・調査の必要性や重要性等について確認 (調査結果は、食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定・達成状況の検証などに利用。また、作物ごとの収穫量等のデータを国際連合食糧農業機関(FAO)に提供)
2 計画の変更 (1) 調査対象の範囲	○そば及びなたねの調査対象作物への追加 ※特定作物統計調査(一般統計調査)における調査対象作物からの変更	●		・適当と整理 (食料・農業・農村基本計画における生産努力目標が設定された作物であり、また、食料自給率の向上に寄与する作物として経営所得安定対策の対象作物にも位置づけられていることを踏まえ、調査対象へ追加)
(2) 調査周期	○一部作物の全国調査の調査周期の変更 ※全国調査実施年以外の年は、主産県(全国の作付面積の約80%を占めるまでの都道府県等)を対象とする調査結果から推計した全国値を公表	●		・おおむね適当と整理 (主産県調査年に関する公表値と推計値の対比は、誤差自体は小さいものの、作付面積及び収穫量については100%を越えているものが多いように思われる。現行推計方法以上によりよい方法について、検討を続けてほしい。)
(3) 報告者	○標本経営体調査における標本設計の変更 ※統計審議会答申(平成19年2月)における指摘事項(標本経営体に係る標本設計の検討)への対応	●		・適当と整理 (①2015年農林業センサス結果を活用し、係団体以外に出荷した農家に絞った母集団の整備による重複の解消。②これまでの実査を通じて得られた情報等を踏まえ、目標精度の設定や標準誤差率の算出等による調査対象数の設定。③農林業センサス作付面積データを活用した階層区分及び確率比例抽出により、対象地域の平均単収を的確に推定等)
(4) 調査事項	①麦類の作付面積調査の変更 ※麦類において、えん麦及びらい麦の把握を廃止し、小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦についても、子実用(食用)のみの把握に変更		●	・おおむね適当と整理 (麦類における各作物の生産実態や行政施策への利用実態等を踏まえた廃止・変更であり、調査の簡素化・効率化や報告者負担の軽減等に寄与)  [別紙1参照]

項目	変更内容等	部会審議	審議の状況
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・えん麦の把握を廃止することについて、麦類の中で小麦に次ぐ作付面積であり、主に肥料用として栽培されており、引き続き肥料用作付面積を把握する必要性について指摘 〔別紙2参照〕</li> </ul>
	②飼肥料作物の作付面積調査の変更 ※飼肥料作物において、肥料作物の把握を廃止し、把握品目を牧草、青刈りとうもろこし及びソルゴーの3品目（現行11品目）並びに飼料作物計に変更	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>適当と整理</b> （飼肥料作物における各作物の生産実態や行政施策への利用実態等を踏まえた廃止・変更であり、調査の簡素化・効率化や報告者負担の軽減等に寄与） 〔別紙3参照〕</li> </ul>
	③茶の収穫量調査の変更 ※茶について、茶種別の把握を廃し、茶期別の把握を年間計及び一番茶（現行6分類）に変更	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>おおむね適当と整理</b> （茶における茶種別・茶種別の生産実態や行政施策への利用実態等を踏まえた廃止・変更であり、調査の簡素化・効率化や報告者負担の軽減等に寄与） 〔別紙4参照〕</li> <li>・代替となる民間団体（全国茶生産団体連合会）のデータと本調査結果の時系列な状況を整理し、第3回部会において確認</li> </ul>
(5) その他調査票の変更等	①調査票の統合等 ※陸稲、麦類、かんしょ及び飼料作物の関係団体用調査票について、作付面積調査票及び収穫量調査票を統合	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>適当と整理</b> （作付面積及び収穫量に係るデータの一体的な審査や検討が可能となり、また、報告者負担の軽減にも寄与）〔別紙5参照〕</li> </ul>
	②野菜指定産地用の調査票の作成等 ※野菜の作付面積や出荷量等を把握する関係団体用調査票について、従前の野菜に係る調査票を分離し、新たに野菜指定産地用の調査票を作成し、当該調査票には指定産地名及び市町村名等をプレプリント	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>適当と整理</b> （報告者負担の軽減とともに、プレプリントによる記入漏れ等の防止により、報告内容のより一層の正確性の確保に寄与） 〔別紙6参照〕</li> </ul>
(6) 集計事項	○調査事項の変更等に伴う集計事項の変更	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>適当と整理</b> （政策課題を検討する上で有用な情報の提供とともに、統計利用者のニーズにも対応）</li> </ul>
3 前回答申における今後の課題への対応状況 ※統計審議会答申（平成19年2月）	①標本経営体に係る標本設計の検討	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>適当と整理</b> （上記2（3）関連）</li> </ul>
	②調査に係る誤差情報の提供	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>適当と整理</b> （平成20年度調査結果から、農林水産省ホームページ等において、関係団体及び標本経営体に対する各作物別の調査に係る誤差情報（母集団数、標本数、抽出率、有効回収数、有効回収率等）を提供） 〔別紙7参照〕</li> </ul>

(注) 第1回(第59回産業統計部会)は8月8日(月)に開催、第2回(第60回産業統計部会)は9月16日(金)に開催。答申案は10月14日(金)の第3回(第62回産業統計部会)において審議予定

## 麦類の作付面積調査の変更について

1 えん麦・らい麦については、子実用の生産はごくわずか（麦類の子実用作付面積に占めるえん麦子実用の割合は0.1%未満）であり、飼料用としての生産についても、飼料作物全体に占める割合は1%未満であることに加え、それ以外については、最終的に収穫される生産物のない、他の農作物生産のための肥料用（ほ場に植え付けられている状態でトラクター等によりすき込んで肥料とする。）としての作付けとなっている。

また、4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦）については、そのほとんどが子実用（4麦計の子実用作付面積に占める割合は約98%）となっている。

	平成25年産	26年産	27年産	割合(%)
麦類(子実用)※	269,649	272,882	274,558	100.0
うち、えん麦	149	182	158	0.1

※4麦(子実用)とえん麦(子実用)の合計

	平成25年産	26年産	27年産	割合(%)
飼料作物計	915,100	924,300	975,200	100.0
うち、えん麦	7,620	7,400	7,370	0.8
うち、らい麦	877	845	807	0.1

	平成25年産	26年産	27年産	割合(%)
4麦計	274,900	278,800	281,000	100.0
うち、子実用	269,500	272,700	274,400	97.7

2 このような状況を踏まえ、本調査事項の簡素化による利活用への影響について、省内関係部局との協議を実施し、具体的な利活用状況を再度精査したところ、えん麦・らい麦については、飼料用は飼料作物作付面積調査のその他に含んで把握できること、また、4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦）については、生産努力目標の策定・達成状況の検証等に必要な子実用については引き続き把握すること等から、本調査事項を簡素化しても行政利用に支障がないことが確認できたため、簡素化を実施することとしたところである。

3 また、報告者負担の軽減の観点からも、麦類の作付面積に係る調査項目は、従前の調査票では54項目であったのに対し、見直し後の調査票においては14項目（40項目の減）となることに加え、これまで別の調査票となっていた収穫量調査と統合することとしているため、従前の調査に比べて報告者の負担も大きく軽減されるものと考えている。

# 麦類の作付面積調査に係る調査事項の変更 部会審議結果

## 調査事項の変更について

### 【調査実施者からの説明】

- えん麦・らい麦については、子実用（主に食用）についての生産はごくわずかであり、飼料用としての生産についても飼料作物全体に占める割合は1%未満であることに加え、それ以外については、他の農作物生産のための肥料用としての作付けであること。
  - 4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦）については、そのほとんどが子実用（4麦計の作付面積に占める割合は約98%）であり、子実用を把握することにより4麦の作付面積もほぼ把握できること。
- ⇒ えん麦・らい麦については作付面積の把握を廃止、4麦については子実用についてのみ引き続き把握（別紙1参照）

### 【委員等からの主な意見】

- えん麦については、麦類の中で小麦に次ぐ作付面積※であり、主に緑肥作物（土壌を肥沃化する目的で栽培し、土にすき込む作物）として栽培され、行政利活用以外でもその経年変化を知ることは重要であるため、継続して把握することを検討いただきたい。

※平成27年 作付面積（総数）

小麦：214,600ha、二条大麦：40,800ha、六条大麦：20,300ha、はだか麦：5,380ha、えん麦：53,200ha

## 部会としての対応

以下のことから、えん麦の緑肥用作付面積について、引き続き調査することを求める方向で審議結果を取りまとめ（別添 調査票新旧対照表〔諮問案と変更案〕参照）。

- ① えん麦の緑肥作物については、環境に配慮した農業推進の観点から公共財として調査を継続することが望ましいことや、本調査結果が代替データの無い唯一の統計であること。
- ② えん麦の作付けのうち、ほとんどが緑肥用（約85%）であり、子実用はごくわずか（0.3%）であること、また、飼料用（約14%）については飼料作物作付面積のその他飼料作物として把握することから、個別品目としては緑肥用作付面積に絞っての調査が効率的であること。

〔えん麦の作付面積〕

	平成25年	26年	27年	割合(%)	
				単位:ha	
				全体	緑肥用
えん麦	52,800	52,300	53,200	100.0	-
うち、子実用	149	182	158	0.3	-
うち、飼料用	7,620	7,400	7,370	13.9	-
うち、緑肥用(差引)	44,380	44,100	45,130	84.8	100.0
北海道	40,587	40,406	41,882	-	92.8
都府県	3,700	3,690	3,250	-	7.2

〔飼料作物の作付面積〕

	平成25年	26年	27年	割合(%)	
				単位:ha	
				全体	その他
飼料作物	915,100	924,300	975,200	100.0	-
牧草	745,500	739,600	737,600	75.6	-
青刈りとうもろこし	92,500	91,900	92,400	9.5	-
ソルゴー	16,500	15,900	15,200	1.6	-
飼料用米・WCS用稲※	48,402	64,810	117,992	12.1	-
その他飼料作物(差引)	12,198	12,090	12,008	1.2	100.0
うち、えん麦(飼料用)	7,620	7,400	7,370	0.8	61.4

※飼料用米、WCS用稲については、行政データとして農林水産省政策統括官が把握する「新規需要米の取組計画認定状況」による。

作物統計調査 調査票新旧対照表

変更案	諮問案	変更点																																																																																																																																																																																													
<p>別添様式第0号</p> <p>農林水産省 統計局</p> <p>統計法に基づく森林統計 作物統計</p> <p>統計法に基づく国の統計調査です。調査票の秘密の保護に努めます。</p> <p>平成 年産</p> <p>畑作物作付面積調査・収穫量調査票(団体用) (抄)</p> <p>飼料作物 えん麦(緑肥用) かんしよ、そば、なたね(子実用)用</p> <p>記入例: 11 9 8 6 5 3</p> <p>記入例: / / / / / /</p> <p>【問い合わせ先】</p>	<p>別添様式第0号</p> <p>農林水産省 統計局</p> <p>統計法に基づく森林統計 作物統計</p> <p>統計法に基づく国の統計調査です。調査票の秘密の保護に努めます。</p> <p>平成 年産</p> <p>畑作物作付面積調査・収穫量調査票(団体用) (抄)</p> <p>飼料作物、かんしよ、そば、なたね(子実用)用</p> <p>記入例: 11 9 8 6 5 3</p> <p>記入例: / / / / / /</p> <p>【問い合わせ先】</p>	<p>えん麦(緑肥用)の作付面積を把握するため、記入欄を追加する等の変更を行う。</p> <p>なお、品目名及び前年値については事前にプレプリントした上で配布する。</p>																																																																																																																																																																																													
<p>【1】貴団体内の作付(栽培)面積及び集荷量について</p> <p>記入上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作付(栽培)面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。</li> <li>○ 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。0.5t未満の集荷量は「0」と記入してください。</li> <li>○ &lt;作物ごとの注意事項&gt;</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物名</th> <th colspan="2">作付(栽培)面積 (田畑計)</th> <th>畑</th> <th>田</th> <th>集荷量</th> <th>うち検査基準以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>前年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>前年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>前年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>前年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> </tbody> </table> <p>裏面に進んでください。</p>	作物名	作付(栽培)面積 (田畑計)		畑	田	集荷量	うち検査基準以上	前年度	ha	ha	ha	ha	t	t	本年度	ha	ha	ha	ha	t	t	前年度	ha	ha	ha	ha	t	t	本年度	ha	ha	ha	ha	t	t	前年度	ha	ha	ha	ha	t	t	本年度	ha	ha	ha	ha	t	t	前年度	ha	ha	ha	ha	t	t	本年度	ha	ha	ha	ha	t	t	<p>【1】貴団体内の作付(栽培)面積及び集荷量について</p> <p>記入上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作付(栽培)面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。</li> <li>○ 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。0.5t未満の集荷量は「0」と記入してください。</li> <li>○ &lt;作物ごとの注意事項&gt;</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目名</th> <th colspan="2">作付(栽培)面積 (田畑計)</th> <th>畑</th> <th>田</th> <th>集荷量</th> <th>うち検査基準以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>前年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>前年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>前年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>前年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> </tbody> </table> <p>裏面に進んでください。</p>	品目名	作付(栽培)面積 (田畑計)		畑	田	集荷量	うち検査基準以上	前年度	ha	ha	ha	ha	t	t	本年度	ha	ha	ha	ha	t	t	前年度	ha	ha	ha	ha	t	t	本年度	ha	ha	ha	ha	t	t	前年度	ha	ha	ha	ha	t	t	本年度	ha	ha	ha	ha	t	t	前年度	ha	ha	ha	ha	t	t	本年度	ha	ha	ha	ha	t	t	<p>【1】貴団体内の作付(栽培)面積及び集荷量について</p> <p>記入上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作付(栽培)面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。</li> <li>○ 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。0.5t未満の集荷量は「0」と記入してください。</li> <li>○ &lt;作物ごとの注意事項&gt;</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物名</th> <th colspan="2">作付(栽培)面積 (田畑計)</th> <th>畑</th> <th>田</th> <th>集荷量</th> <th>うち検査基準以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>前年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>前年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>前年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>前年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>ha</td><td>t</td><td>t</td></tr> </tbody> </table> <p>裏面に進んでください。</p>	作物名	作付(栽培)面積 (田畑計)		畑	田	集荷量	うち検査基準以上	前年度	ha	ha	ha	ha	t	t	本年度	ha	ha	ha	ha	t	t	前年度	ha	ha	ha	ha	t	t	本年度	ha	ha	ha	ha	t	t	前年度	ha	ha	ha	ha	t	t	本年度	ha	ha	ha	ha	t	t	前年度	ha	ha	ha	ha	t	t	本年度	ha	ha	ha	ha	t	t
作物名	作付(栽培)面積 (田畑計)		畑	田	集荷量	うち検査基準以上																																																																																																																																																																																									
前年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
本年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
前年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
本年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
前年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
本年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
前年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
本年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
品目名	作付(栽培)面積 (田畑計)		畑	田	集荷量	うち検査基準以上																																																																																																																																																																																									
前年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
本年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
前年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
本年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
前年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
本年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
前年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
本年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
作物名	作付(栽培)面積 (田畑計)		畑	田	集荷量	うち検査基準以上																																																																																																																																																																																									
前年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
本年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
前年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
本年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
前年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
本年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
前年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									
本年度	ha	ha	ha	ha	t	t																																																																																																																																																																																									



## 飼肥料作物の作付面積調査の変更について

- 1 飼料作物については、牧草、青刈りとうもろこし及びソルゴの3品目の作付面積で、全体の約87%を占める ことに加え、近年作付けが増加している 飼料用米・WCS用稲<sup>(※)</sup>については政策部局で把握する行政データで把握可能(飼料用米・WCS用稲で全体の約12%)であること、また、肥料作物につきましては、最終的に収穫される生産物のない、他の農作物生産のための肥料用(ほ場に植え付けられている状態でトラクター等によりすき込んで肥料とする。)としての作付けとなっている。

(※) WCS用稲とは、家畜の飼料用として、稲の実が完熟する前に、稲の穂と茎葉を一体的に収穫し、乳酸発酵させた飼料(ホールクロップサイレージ: Whole Crop Silage)のことをいう。

	平成25年産	26年産	27年産	割合(%)	
				全体	飼料用
飼肥料作物計	1,012,000	1,019,000	1,072,000	100.0	-
飼料作物	915,100	924,300	975,200	91.0	100.0
3品目計	854,500	847,400	845,200	78.8	86.7
牧草	745,500	739,600	737,600	68.8	75.6
青刈りとうもろこし	92,500	91,900	92,400	8.6	9.5
ソルゴ	16,500	15,900	15,200	1.4	1.6
飼料用米・WCS用稲 <sup>※</sup>	48,402	64,810	117,992	11.0	12.1
WCS用稲	26,600	30,929	38,226	3.6	3.9
飼料用米	21,802	33,881	79,766	7.4	8.2
その他飼料作物(差引)	12,198	12,090	12,008	1.1	1.2
肥料作物(差引)	96,900	94,700	96,800	9.0	-

※飼料用米、WCS用稲については、行政データとして農林水産省政策統括官で把握する「新規需要米の取組計画認定状況」による。

- 2 このような状況を踏まえ、本調査事項の簡素化による利活用への影響について、省内関係部局との協議を実施し、具体的な利活用状況を再度精査したところ、主要品目である3品目(牧草、青刈りとうもろこし及びいソルゴ)に加え、生産努力目標の策定・達成状況の検証等に必要飼料作物計については引き続き把握すること等から、本調査事項を簡素化しても行政利用に支障がないことが確認できたため、簡素化を実施することとしたところである。

なお、飼料作物計の算出に必要なその他飼料作物の作付面積(行政データにより把握可能な飼料用米・WCS用稲を除くと飼料作物全体の約1%)については、調査の効率的な実施の観点から、3年周期で実施する全国調査年に把握し、中間年についてはその結果から推定(前2か年分の全国調査年の結果から傾向値を算出し推定)することとしている。

- 3 また、報告者負担の軽減の観点からも、飼料作物の作付面積に係る調査項目数は、従前の調査票では31項目であったのに対し、見直し後の調査票においては12項目(19項目の減)となっていることに加え、これまで別の調査票となっていた収穫量調査と統合することとしているため、従前の調査に比べて報告者の負担が大きく軽減されるものと考えている。

## 茶の収穫量調査の変更について

- 1 茶については、関係団体(全国茶生産団体連合会)において、本調査と同様に、茶期別、茶種別の生産量データを毎年把握していることに加え、本調査における主要な利活用である生産努力目標については、茶期別・茶種別ではなく、茶全体の数量(荒茶生産量)として示されているところである。

### [平成 27 年度 茶生産流通実態調査事業(全国茶生産団体連合会)(抜粋)]

#### 3 各茶期終了時点における茶種別荒茶生産量

##### (1) 一番茶

都道府県	摘採面積		摘採期間	荒茶生産量(t)										前年対比(%)										
	ha	前年比		緑茶計	おおい茶		普通せん茶	釜炒り茶	蒸し製玉緑茶	番茶	その他の緑茶	紅茶	その他の茶	茶計	おおい茶		普通せん茶	釜炒り茶	蒸し製玉緑茶	番茶	その他の緑茶	紅茶	その他の茶	
					玉露	かぶせ茶									玉露	かぶせ茶								
宮城	15	100	5/10 ~ 6/3																					
茨城	250	100	5/10 ~ 6/13	124		5		114			5		79		100		78			100				
群馬	15	100	5/10 ~ 6/3	5				5					100				100							
埼玉	900		5/5 ~ 5/20	532			2	530					96			100	96							
東京	130		4/25 ~ 5/30	72				72					111				111							
神奈川			4/30 ~ 5/31	89				89					104				104							
新潟	17	92	5/1 ~ 7/31	5	0	0		3			1	0	73	43	167		80			93	62			
山梨	123	97	5/2 ~ 5/22	52				52					111				111							
長野	67	96	5/7 ~ 6/5	20				20					94				94							
静岡	16,200	98	4/20 ~ 5/15	12,638	15	199	120	11,900	1	108	233	62	101	115	112	115	101		88	97	132			
岐阜			4/26 ~ 6/22	174		1	21	152					98		100	70	97							
愛知			~	449		11	351	85				3	99		115	93	124			1,067				
三重	2,830		4/29 ~ 6/15	3,260	6	1,560	95	1,384				67	148	111	120	117	95	111			77	99		
滋賀	402	96	4/24 ~ 6/1	221	2	41	2	132				44		105	100	108	100	104			107			
京都	1,531	98	4/26 ~ 6/24	1,622	160	163	505	397				375	22	103	92	106	108	99			102	122		
兵庫	51	85	5/3 ~ 7/4	46				35				10		99				84			240		400	
奈良	650	98	5/6 ~ 6/23	950	0	300	95	140				415		97	86	94	136	100			92			
和歌山	16	93	4/21 ~ 6/23	7				3			1	3		99				77			100	153		
鳥根	95	87	5/7 ~ 5/27	70				70						101				101						
岡山			5/9 ~ 6月中旬	55				55						92				92						
山口	39	100	4/28 ~ 5/30	60				40				15	5	116				120			108	112		
香川	57	84	4/18 ~ 5/22	41				29				8	4	101				107			92	84		
愛媛	35	100	4/29 ~ 5/30	23				21				2		105				111					64	
福岡	1,550	98	4/9 ~ 5/27	1,215	75	300	40	740				60		97	107	97	114	99			80			
佐賀	802	97	4/16 ~ 5/21	671	1	65		28	19	432		126		87	100	98		51	106	86		96		
長崎	624	90	4/15 ~ 5/20	453				6	3	406	13	25		91				100	90	87	114			
熊本	1,200	96	4/8 ~ 6/5	703				250	18	423	12			91				88	90	92	92			
大分			~	225		20		152	21	32														
宮崎			4/10 ~ 5/30	931				742	42	19	127			95				94	93	81	106			
鹿児島	8,020	99	3/26 ~ 5/30	7,570		142		5,660		40	1,610	26	3	84	90		72	89		45	92	144	150	
合計	35,618	97	-	32,282	259	2,807	1,230	22,904	104	1,460	3,001	423	4	84	99	99	108	101	99	93	94	92	127	95

#### [食料・農業・農村基本計画における生産努力目標(茶)]

茶(荒茶生産量) 平成 25 年度 : 8.5 万トン 平成 37 年度 : 9.5 万トン

- 2 このような状況を踏まえ、本調査事項の簡素化による利活用への影響について、省内関係部局との協議を実施し、具体的な利活用状況を再度精査したところ、生産努力目標の策定・達成状況の検証等に必要茶全体については引き続き本調査で把握することに加え、その内訳である茶期別・茶種別については、関係団体(全国茶生産団体連合会)で継続的に把握するデータにより代替が可能であること等から、本調査事項を簡素化しても行政利用に支障がないことが確認できたため、簡素化を実施することとしたところである。

なお、茶期別のうち一番茶については、農業災害補償制度における畑作物共済の対象であり、国の再保険の支払いに係る審査に利用されるため、調査を継続することとしている。

- 3 また、報告者負担の軽減の観点からも、茶の収穫量調査に係る調査項目数は、従前の調査票では 54 項目であったのに対し、見直し後の調査票においては 7 項目(47 項目の減)となっており、従前の調査に比べて大幅に報告者の負担が軽減されるものと考えている。

- 4 なお、作物統計調査と全国茶生産団体連合会が実施する調査の結果について、下表のとおりであり、内訳としての茶期別・茶種別の構成比で比較した場合、0～2%以内の差であり、代替データとしての利用に問題はないものと考えている。

[ 茶期別荒茶生産量の比較（平成27年） ]

単位：t

		年間計	一番茶	二番茶	三番茶	四番茶・冬 春秋番茶
農林水産省（公表値）	実数	76,400	31,400	20,300	5,920	18,710
	構成比	100.0%	41.1%	26.6%	7.7%	24.5%
全国茶生産団体連合会	実数	74,780	30,947	19,922	5,760	18,126
	構成比	100.0%	41.4%	26.6%	7.7%	24.2%
差	実数	1,620	453	378	160	584
	構成比	-	-0.3%	0.0%	0.0%	0.3%

[ 茶種別荒茶生産量の比較（平成27年） ]

単位：t

		年間計	おい茶	普通せん茶	玉緑茶	番茶	その他
農林水産省（公表値）	実数	76,400	6,710	45,800	1,720	19,500	2,580
	構成比	100.0%	8.8%	59.9%	2.3%	25.5%	3.4%
全国茶生産団体連合会	実数	74,780	6,428	43,568	2,122	19,625	3,026
	構成比	100.0%	8.6%	58.3%	2.8%	26.2%	4.0%
差	実数	1,620	282	2,232	-402	-125	-446
	構成比	-	0.2%	1.6%	-0.5%	-0.7%	-0.6%



平成 29 年度作物統計調査

関係団体用調査票の統合について

< 陸稲 >

平成 29 年度調査（案）

様式第 4 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票） 陸稲

【 1 】 貴団体が集荷している作付面積及び集荷量について

記入上の注意

- 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位（10a単位）まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。
- 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。
- **陸稲品種を田に作付けしたものは除きます。** 水稻品種を畑に作付けしたものは陸稲に含めますが、**計画的にかんがいを行い栽培するものは除きます。**

作物名	作付面積		集荷量	うち検査基準以上
	前年産	本年産		
陸稲	ha	t	t	

【同様の変更】

- ・様式第 5 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票）麦類  
（旧様式第 2 号（団体用作付面積調査調査票）麦類）及び「旧様式第 7 号（団体用収穫量調査調査票）陸稲、麦類、大豆、かんしよ、飼料作物」の統合
- ・様式第 6 号（団体用作付面積調査・収穫量調査調査票）飼料作物、かんしよ、そば、なたね  
（旧様式第 5 号（団体用作付面積調査調査票）かんしよ、陸稲、飼料作物）と「旧様式第 7 号（団体用収穫量調査調査票）陸稲、麦類、大豆、かんしよ、飼料作物」の統合

平成 28 年度調査（現行）

様式第 5 号（団体用作付面積調査調査票） かんしよ、陸稲、飼料作物

貴団体内の作付状況について、以下の作物ごとに記入してください。

1 かんしよの作付面積

単位：ha

作物名	作付面積 (田畑計)		畑
	前年産	本年産	
かんしよ	田		
	畑		

2 陸稲の作付面積

単位：ha

作物名	作付面積 (田畑計)	
	前年産	本年産
陸稲	田	
	畑	

- ※ 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位（10a単位）まで記入してください。
- ※ 陸稲については、陸稲品種を田に作付けしたものは除きます。
- ※ 水稻品種を畑に作付けしたものは陸稲に含めますが、**計画的にかんがいを行い栽培するものは除きます。**

様式第 7 号（団体用収穫量調査調査票） 陸稲、麦類、大豆、かんしよ、飼料作物

【 1 】 作付面積及び集荷量について

本年産の作付面積及び集荷量について、以下の作物ごとに記入してください。

作物名	年産	作付面積	集荷量	うち、検査基準以上
	ha	t	t	
	前年産			
	本年産			
	前年産			
	本年産			
	前年産			
	本年産			

- 注：1 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位（10a単位）まで記入してください。  
 2 「うち、検査基準以上」欄には、陸稲は3等以上のものを、麦類は1等、2等に加え規格外のうち規格外なものを合計を、大豆は「特定加工用」以上のものを記入してください。  
 なお、かんしよについては記入の必要はありません。  
 3 検査を受けないものや、抛田日までに検査を受けていない場合は集荷された農作物の状態から検査基準となる重を見積もって記入してください。

(注) 「前年産」のデータについては、従前から事前にプレプリントした上で配布しており、統合した調査票でも同様の対応をすることとしている。



## (9) 調査方法の概要

## ア 耕地面積調査及び水稲作付面積調査

## (ア) 耕地面積及び水稲作付面積

## a 母集団の編成

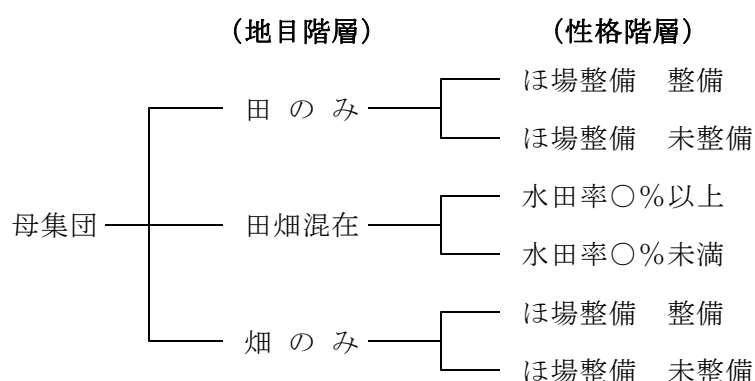
空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく200m四方（北海道にあっては、400m四方）の格子状に区分した上で、耕地が存在する区画を調査のための「単位区（けい畔で区切られた現況1枚ごとの筆の集まり）」とし、この単位区の集まりを母集団としている。

母集団は、ほ場整備、宅地への転用等により生じた現況の変化を反映するため、単位区の情報に補正することにより整備している。

## b 階層分け

調査精度の向上を図るため、母集団を各单位区内の耕地の地目に基づいて地目階層（「田のみ階層」、「田畑混在階層」及び「畑のみ階層」）に分類し、次にそれぞれの地目階層について、ほ場整備の状況、水田率等の指標で設定した性格階層に分類している。

## 階層分け模式図（例）



## c 標本配分及び抽出

都道府県別の田畑別耕地面積及び水稲作付面積が的確に把握できるよう階層ごとに標本数を配分し、系統抽出法により抽出する。

なお、各階層内の単位区は、bで示したように地目及び性格が類似したものであるため、抽出された標本は階層の代表性が高いものとなっている。

## d 実査（対地標本実測調査）

抽出した標本単位区内の全ての筆について、1筆ごとに現況地目及び耕地の境界並びに作付の状況及びその範囲を確認する。

## e 推定

「標本単位区の台帳面積の合計」に対する「実査により得られた標本単位区の現況見積り面積の合計」の比率を「母集団（全単位区）の台帳面積の合計」に乘じ、これに台帳補正率（別途面積調査用の地理情報システムを使用して求積した結果に基づき算出した台帳面積に対する実面積の比率）を乗じることにより、全体の面積を推定している。

$$\text{推定面積} = \frac{\text{標本単位区の現況見積り面積合計}}{\text{標本単位区の台帳面積合計}} \times \text{全単位区の台帳面積合計} \times \text{台帳補正率}$$

なお、けい畔面積については、別途実測により測量したけい畔割合（率）を推定結果に乗じて算出している。

f その他

遠隔地、離島、市街地等の対地標本実測調査が非効率な地域については、職員による巡回・見積り、情報収集等によって把握している。

(イ) 耕地の拡張及びかい廃面積

職員による巡回・見積り、情報収集等によって把握している。

なお、耕地の拡張及びかい廃面積は、平成25年7月15日から平成26年7月14日までに生じたものである。

(ウ) 原子力災害対策特別措置法（平成11年法律第156号）により立入りが制限されている区域

福島県のうち原子力災害対策特別措置法により立入りが制限されている区域については、対地標本実測調査及び職員による巡回・見積りの実施が困難なことから、当該区域の平成23年耕地面積を計上している。

なお、関係機関からの情報収集によって把握できた面積は計上している。

イ 水稲以外の作物の作付（栽培）面積調査

関係団体に対する往復郵送調査によって把握し、これを職員による巡回・見積り及び情報収集により補完している。

(10) 対地標本実測調査における標本数及び調査結果（全国）の実績精度

標本単位区：39,369単位区

区 分	標準誤差率（%）
耕地面積（田）	0.18
耕地面積（畑）	0.36
水稲作付面積	0.36

注：標準誤差率（%）＝標準誤差の推定値÷推定値×100

(11) 調査対象数

区 分	関係団体等調査			巡回・ 見積り 市町村数
	対象数 ①	回収数 ②	回収率 ③=②/①	
陸 稲	団体 28	団体 28	% 100.0	市町村 1,720
麦 類	646	644	99.7	1,720
大 豆	640	635	99.2	1,720
小 豆	138	138	100.0	1,720
い ん げ ん	61	61	100.0	1,720
ら っ か せ い	20	20	100.0	1,720
そ ば	369	347	94.0	1,720
か ん し ょ	154	154	100.0	1,720
飼 肥 料 作 物	259	255	98.5	1,720
果 樹	618	609	98.5	1,720
茶	161	159	98.8	1,720

## 誤差情報提供の例（野菜収穫量調査） ※e-Statより抜粋

### (6) 調査対象の選定

調査の対象は、調査対象都道府県において調査対象品目の集出荷を行っている農協等及び野菜生産出荷安定法（昭和41年法律第103号）第10条第1項に規定する登録生産者の関係団体（関係団体調査）並びに標本経営体（標本経営体調査）としており、その選定については、以下のとおりとした。

#### ア 関係団体調査（全数調査）

調査対象となる全ての関係団体とした。

#### イ 標本経営体調査（標本調査）

2010年世界農林業センサスにおいて調査対象品目を販売目的で作付けした農林業経営体からなる母集団から無作為に抽出（母集団名簿を作付面積の昇順に並べ替え、標本数に応じて等間隔に抽出する方法（系統抽出法）により抽出）した。

### (7) 調査対象数

	関係団体調査			標本経営体調査				
	団体数 ①	有効回収数 ②	有効回収率 ③=②/①	母集団経営体数 ④	標本数 ⑤	抽出率 ⑥=⑤/④	有効回収数 ⑦	有効回収率 ⑧=⑦/⑤
	団体	団体	%	経営体	経営体	%	経営体	%
指定野菜のうち、春植えばれいしょ	716	663	92.6	91,683	5,132	5.6	2,609	50.8
指定野菜のうち、春野菜、夏秋野菜及びたまねぎ	1,526	1,450	95.0	1,142,195	13,668	1.2	5,517	40.4
指定野菜のうち、秋冬野菜及びほうれんそう並びに指定野菜に準ずる野菜	1,549	1,471	95.0	1,006,392	13,917	1.4	6,391	45.9

注：「有効回収数」は、回収があったもののうち、当年産において作付けがなかった標本経営体等を除いた数である。

### (11) 調査・集計方法

作付面積は、関係団体に対する往復郵送調査を基に、職員による巡回・見積りにより補完し算出している。

収穫量及び出荷量は、関係団体及び標本経営体に対する往復郵送調査結果により算出した10a当たり収量を必要に応じて巡回・情報収集結果により補完し、これに作付面積を乗じて算出している。この場合の各都道府県の10a当たり収量は、調査対象品目について関係団体取扱数量割合（当該都道府県合計の出荷量に対する関係団体の取扱数量割合）がおおむね80%以上の場合は関係団体に対する往復郵送調査結果（標本経営体に対する往復郵送調査結果による自家消費等の量を勘案して出荷量から推計した収穫量を用いて算出）を、おおむね80%未満の場合は標本経営体に対する往復郵送調査結果を採用している。

### (12) 全国値の推計方法

本年産調査は主産県を対象とする調査であることから、全国調査を行った平成25年産の調査結果に基づき、次により推計した。

$$\text{全国値} = \frac{\text{平成25年産の全国値} \times \text{当年産の調査対象都道府県値の合計値}}{\text{平成25年産における当年産の調査対象都道府県値の合計値}}$$

### (13) 都道府県値の推計方法

季節区分のある品目であって、調査を行っていない季節区分がある場合の品目計は、全国調査を行った平成25年産の調査結果に基づき、次により推計した。

$$\text{都道府県値} = \frac{\text{平成25年産の都道府県値} \times \text{当年産の調査対象季節区分の値の合計値}}{\text{平成25年産における当年産の調査対象季節区分の値の合計値}}$$

### (15) 目標精度

本調査において、目標精度は設定していない。

